

# 確定エスキス(予測課題1での解説)

## 【確定エスキス(予測課題1での解説)について】

確定エスキスは、本試験での課題に対して、事前に自分のエスキス(車寄せ、階段、EV、吹抜け、住戸などの各要因)をある程度決定しておくことである。

製図試験は、「時間との勝負の試験」であり、研究会は、事前にある程度の内容を確定した方がエスキスをスピーディに終了できると推奨している。各資格学校は、ここについて確定するまでの指導を行っていない。あくまで、多くの課題に対して、その解答を示すまでの授業である。研究会は、もう一步踏み込んで、各エスキス内容をどんどん確定することを推奨する。初受験者の方は、この図面の中のどこが確定エスキスを用いて書いているのかと理解頂ければ、また2年目以降の方は、殆ど知っているよという中でいくつかでも、そうなんだと思って頂ければ幸いである(一部単純な解説のみの部分もある)。ここでは、予測課題1の図面を参考に、確定エスキスとなる部分を赤丸で示して解説する。

なお、予測課題1の留意点は以下の通りである。

- ・部門構成を、居住部門(3~5階)、供託サービス部門(2階)、共用部門(1階)、管理部門と明確な階層別に分けた(ゾーニングがシンプルで基本となる課題)。
- ・想定される駐車場は、送迎用福祉車両用2台、車椅子利用者用1台、サービス用1台と駐輪場は15台での計画し、車寄せでの駐車場計画ができるように配慮した。
- ・要求室が多く、全ての部屋を効率よく平面計画しないと、課題条件である床面積の合計3,500㎡以下に納まらず、またスパン割り条件によっては逆に超える可能性もある。
- ・近年出題の多い、吹抜けと屋上庭園を組み合わせ、この点は、容易に計画できるようになって頂きたい(ここは、計画の要点等でも良く出題されている)。

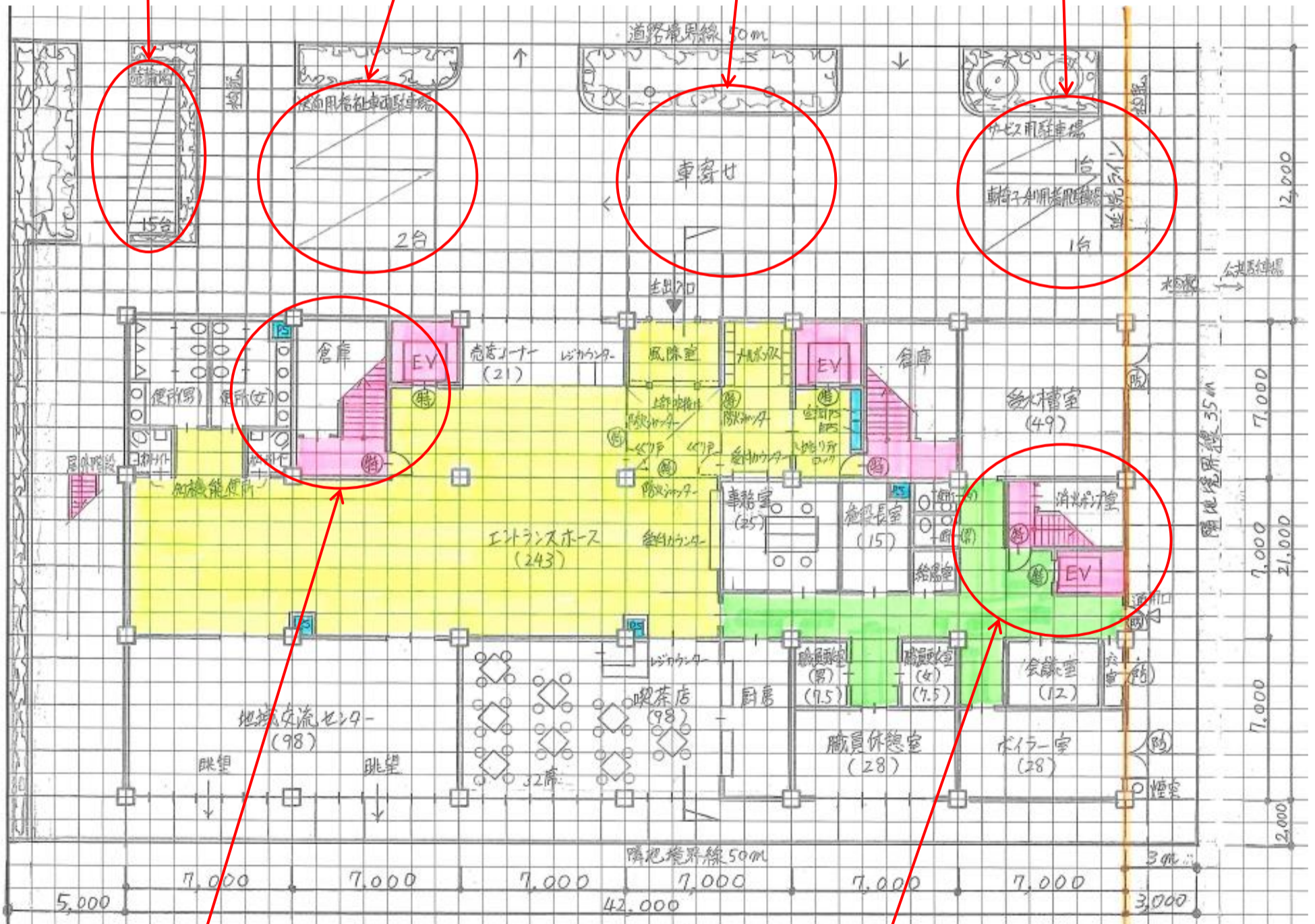
## 【1階平面図兼配置図】

駐輪場は、2m×0.5mで確定この寸法に対して必要台数で決定する、なお駐輪場通路は幅2mとする。

送迎用福祉車両の駐車場は、その寸法が指定される可能性が高い。指定されない場合、6m×3.5mとする。敷地内車路の左右に駐車場が配置される。

送迎車のある場合、車寄せが計画される。その場合、道に対して敷地内一方通行での車路が必要となる。また、車寄せは、主出入口の直前となる。

車椅子利用者用駐車場は、3.5m×5m サービス用駐車場は、2.5m×5mである。この場合、主出入口に近い方が車椅子利用者用駐車場となる。



利用者用階段は、バリアフリー法から階高4m(3.5m含む)の場合、7m×4mである(7m×3.5mでも可)。エレベーターは、車椅子利用者がEV内で回転できるように16人乗りで計画する、その場合、3m×3mあれば良い(2.5m×3mも可)。

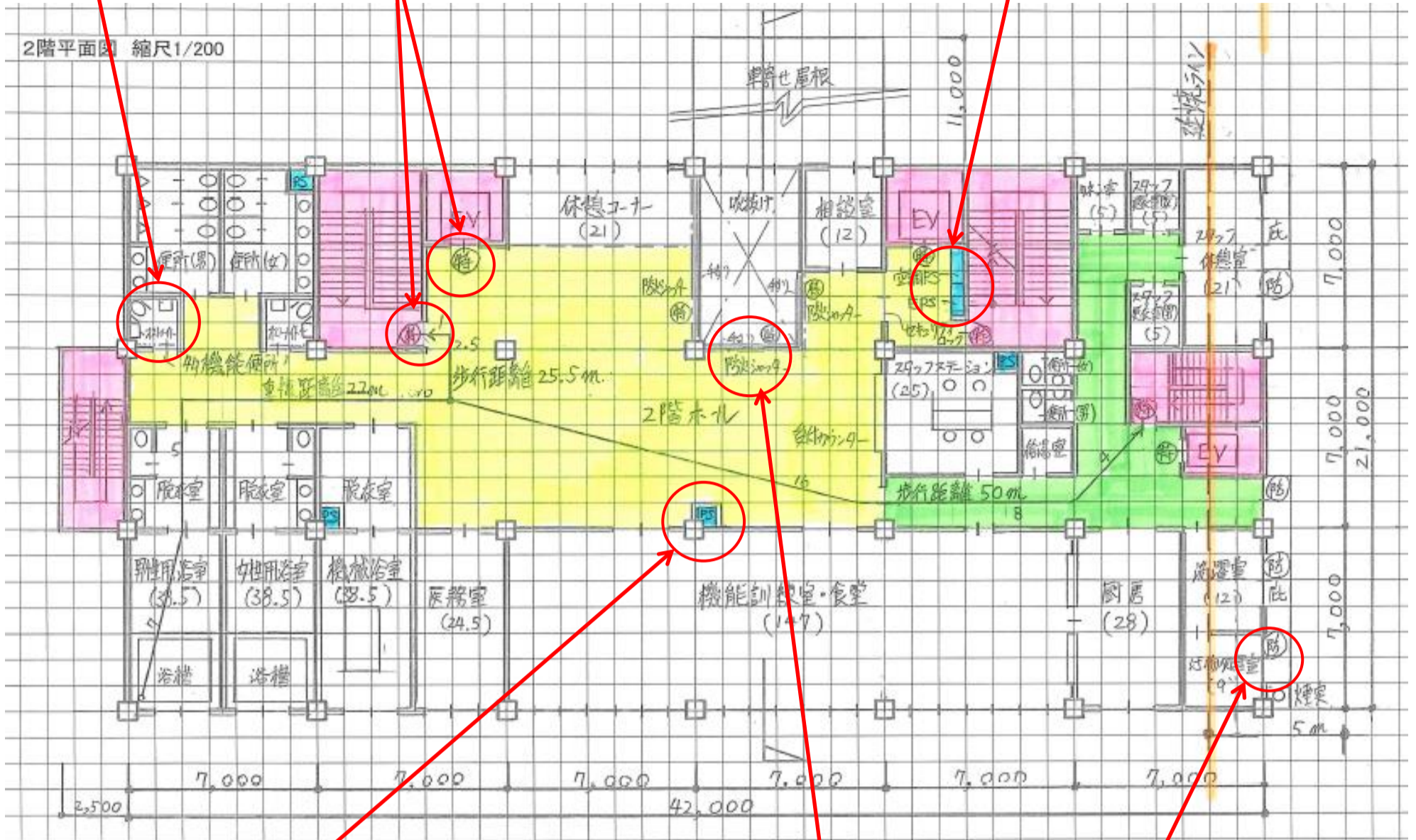
管理者用階段は、階高4m(3.5m含む)の場合、5m×3mである。エレベーターは、荷物等運搬のため奥行きをとり、2m×3mとする。階段下は、「消火ポンプ室」として活用する。利用者階段の下も考えられるが、メンテナンスの観点からはこちらがベスト(納まる)。

## 【2階平面図】

多機能便所は、車椅子が回転できるよう2m×2mとする。内部にオストメイトを書く。

階段とEVは、特定防火設備とする。堅穴区画なので防火設備が必要であり、更に面積区画を含めて特定防火設備とする。

空調用PSとEPSは、5階まで行くEVと階段の近くで確定とする(各階で全て同じ場所とする)。ここでは、どちらも0.5m×1.5mとし、全面開放でのメンテナンス可能としている(1m×2.5m等も可)。



このPSは、3階より上階の住戸PSへの対応である。PSは、1回の曲がり(場所違い)であれば、問題ない。上階の二つのPSをここで受け持つようにする。

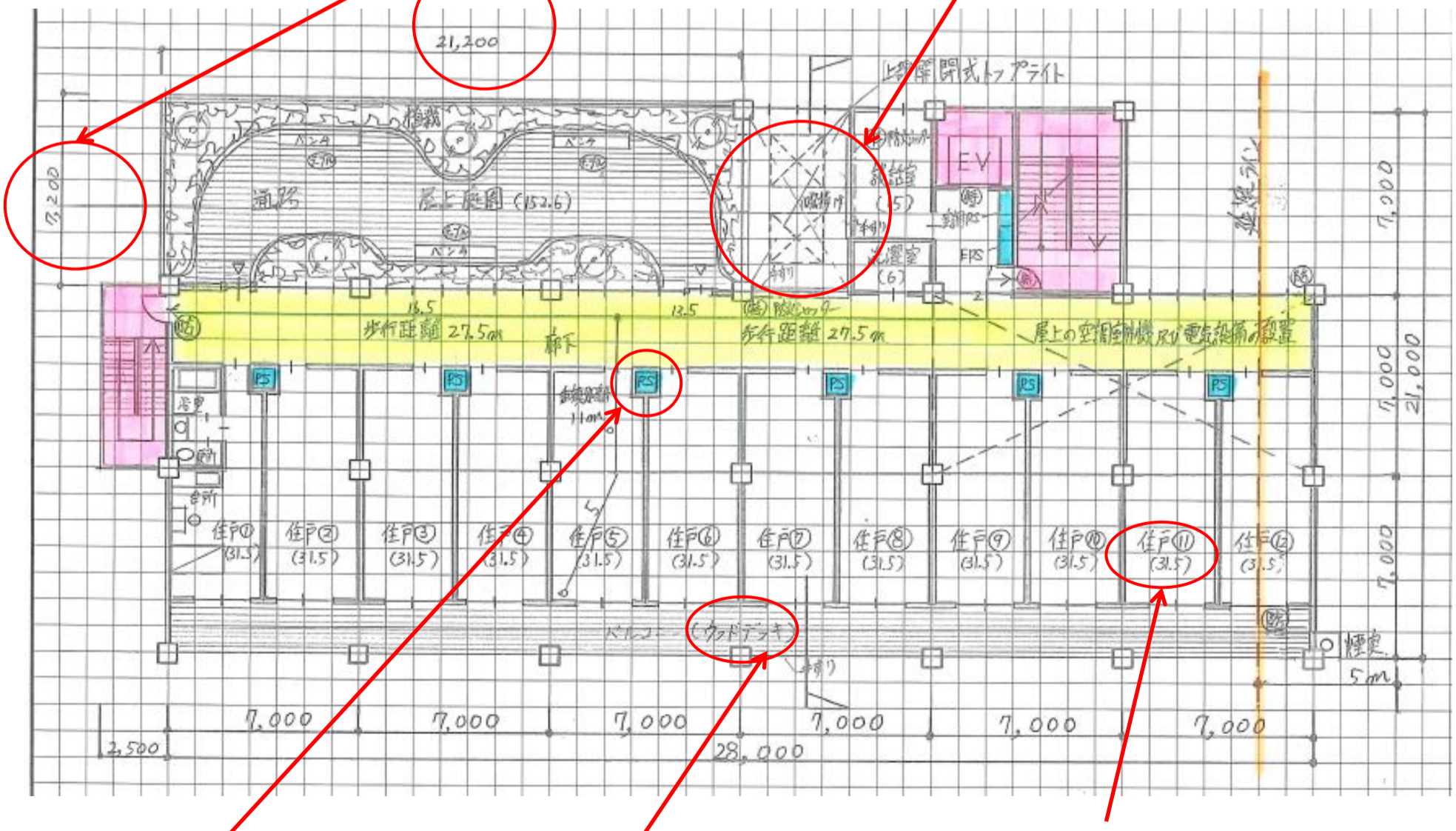
吹抜けは、3層以上の場合、堅穴区画となる。2層の場合は堅穴区画とならない。ここでは、5層の吹抜けであり、更に面積区画も含むことから防火シャッター(特定防火設備)とする。

延焼ライン内の窓、扉等の開口部は全て防火設備となる。

## 【3階平面図】

屋上庭園は、150㎡以上の条件である。7m×21mでは147㎡で条件違反となる。テクニックとして北と西で梁上200mm拡大して7.2m×21.2m=152.6㎡とした。

吹抜け上部は、開閉式トップライトで確定。自然採光、自然通風を取り入れる。

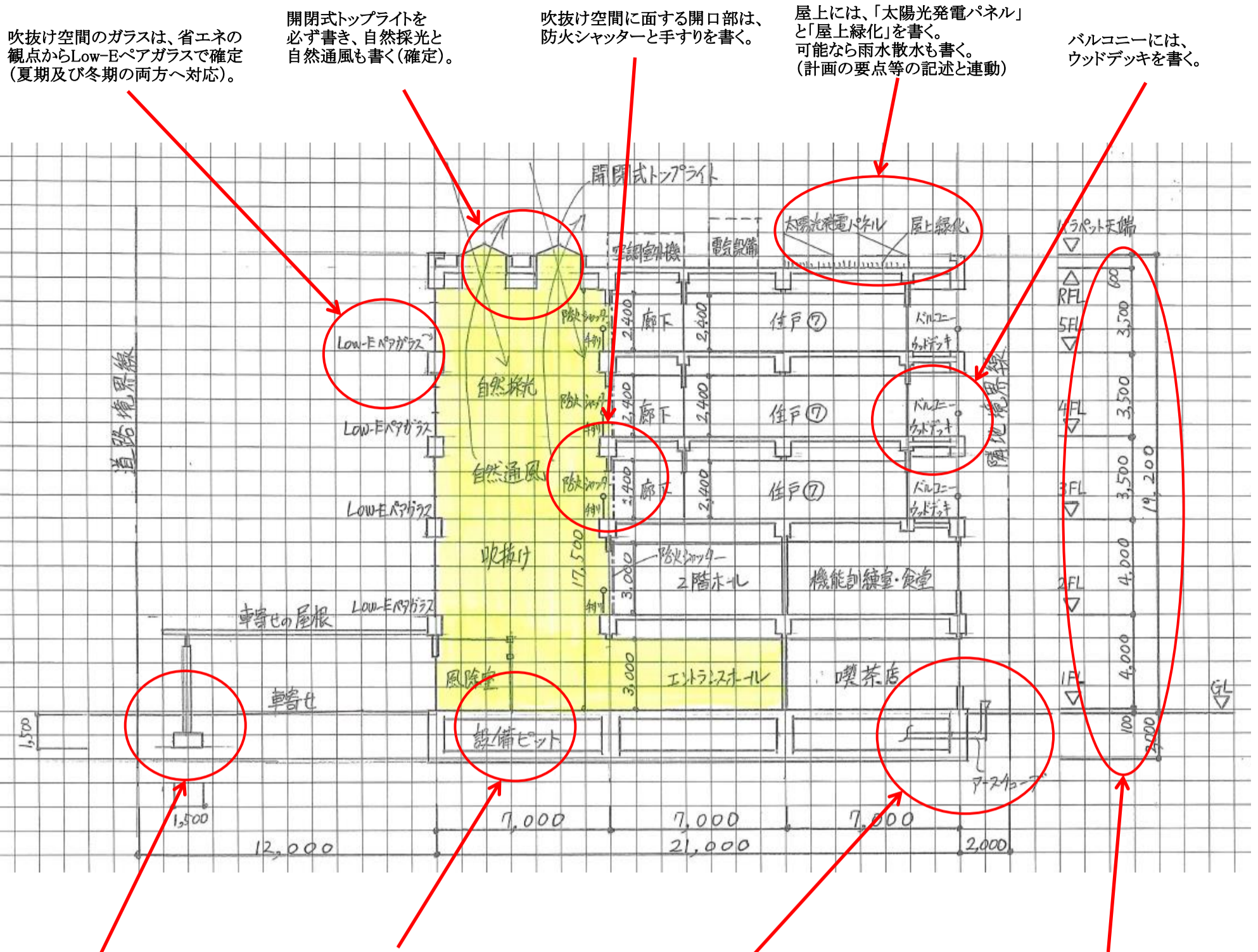


PSは、2住戸で1㎡が良い(2㎡1つ、1㎡×2でも良い)。

バリアフリーの観点から居室との段差をなくすためウッドデッキで確定。

住戸は、幅最小3mが良い(本計画は3.5m)。可能な限り南面に並べて配置する(北向きは何らかの条件、公園等がないと減点と推定)。

【断面図】



車寄せの基礎は、独立基礎とする。

建物の基礎はベタ基礎とする。（作図時間が最も早い。）ピット部を設備等で活用する。配管、アースチューブ、場合によっては雨水利用の貯留槽。

計画の要点等での記述が無くてもアースチューブは書く（省エネへの配慮である、確定）。

階高は、1階と2階は、4mとする。2階に浴室があっても4mなら1階天井高さを3mにできる。住戸は、4mでは高さ制限にかかる場合もあるので、3.5mで確定。

車寄せの屋根部分は、庇と同様に1mを除く部分が含まれるので、11mのうち10mが建築面積となる。

屋外階段は、1mを除く部分が含まれるので、2.5mの幅なら1.5mが建築面積に含まれる。

【面積表】

面積表（算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。）

建築面積	(算定式) $42.0 \times 21.0 + 7.0 \times 10.0 + 1.5 \times 7.0 = 962.5$ (車寄せ屋根) (屋外階段)	962.5 m <sup>2</sup>
床面積	3~5階 (算定式) $(42.0 \times 12.0 + 7.0 \times 7.0 + 7.0 \times 3.0) \times 3 = 1,722.0$	合計 3,458.0 m <sup>2</sup>
	2階 (算定式) $42.0 \times 21.0 - 4.0 \times 7.0 = 854.0$ (吹抜け)	
	1階 (算定式) $42.0 \times 21.0 = 882.0$	